

**Benefit of Acquisition**  
知的財産権の活用で得られたメリット

- 1 他の違いが「見える化」された
- 2 従業員の「レベルアップ」を推進できた
- 3 競合する企業との「競争で優位」に立てた
- 4 取引先との「交渉力」を強化できた
- 5 素敵にオリジナルを「伝える」ことができた
- 6 パートナーとの「関係づくり」に活かせた

知識と知恵を駆使して  
ロジックを理解し、  
他社の動向を読み解く

— 知財検定に挑戦する中で大変なことは



社内の勉強会で使用しているテキスト。梅村さんがオリジナルで作成した教材も活用して説明性を出している

また、たとえそれがなくても知財確保の必要性を判断し、目的を果たすために自ら行動できる人を育てたいのです。

山本：情報という財産を得るために私たちには人を育成します。人を育成すれば、発明した技術や製品を知的財産化して守ったり利用したりできます。知財検定の活用は、その最初の一歩なのです。

しかし、弊社社長もその思いから、知財活動の活性化に役立てればと兵庫県発明協会の理事を務めています。ですから当社には苦から。技術者は一人特許出願1件。という目標や、開発担当者は自分で特許出願の書類を書く。という決まりことがあります。ただ、それが私たちの知的財産に対する意識向上やスキルアップにつながっているかは、正直なところ分かりませんでしたが、今は梅村が目的意識を持って知財活用の取り組みを進めてくれて、とても良い手応えを感じています。

梅村：私が取り組みの目的の一つとして掲げているのは、知財人材の育成です。日々の業務が多忙な皆さんに時間を使わず勉強してもらうには理由があります。会社として知的財産を確保しなければならないという至上命題的な前提があるのも理由の一つですが、たとえそれがなくとも知財確保の必要性を判断し、目的を果たすために自ら行動できる人を育てたいのです。

山本：情報という財産を得るために私たちには人を育成します。人を育成すれば、発明した技術や製品を知的財産化して守ったり利用したりできます。知財検定の活用は、その最初の一歩なのです。

梅村：最初から最後まで読もうとすると挫折してしまうことが多いので、自分に関係のある技術や従来の技術、社内で熱く沸いている技術などをピックアップして読むようにアドバイスしています。読みどころを較べることで推移はなんとか回避できます。請求項はまづ避けた方がいいですね。

山本：一番始めは実施例を読むのがいいと思いましたが、その後技術的背景を読めば、そういう

うやり方があるのか、そういう測定方法があるのか、と参考になります。また、新しい開発をするときにはアイデアのヒントがつかめますし、課題があるときは技術的背景を読みば業界のことが分かるので、知識を増やすこともできます。

—これまで知財検定を活用されてきて、どんな成果を感じていますか？

梅村：検定の勉強とは別に「Patentの使用方法」も教えていますが、そこに検定2級の知識が加わることで、新たに開発をしようとする技術者が進んで先行技術調査を行うようになっています。特許というロジックが出来上がっていますから、知識と知恵を駆使してロジックを理解し、他社の動向を読み取ることで、できれば、技術者として大きな強みになります。

山本：私がよく聞くのは、公報が読めるようになつたという声です。専門用語の多い公報をすらすら読み、理解する力がついたこと

で、論点をついた質問ができるようになっています。特許というロジックが出来上

に近い状態から開発をスタートすることができるのです。今では技術者の約7割が知財検定2級を取得しています。

梅村：現段階では特許権の活用法は、文献的

な手法を読むのが辛いようです。それを克服する方法はひたすら辛さに耐えて読むしかありません。そうするうちに読む力が鍛えられ、特許公報のことを読めばいいかも分かるようになります。

山本：一番始めは実施例を読むのがいいと思

いました。そして技術的背景を読めば、そういう

うやり方があるのか、そういう測定方法があ

るのか、と参考になります。また、新しい開発

をするときにはアイデアのヒントがつかめます

すし、課題があるときは技術的背景を読み

ば業界のことが分かるので、知識を増やすこ

ともできます。

—なぜそうした取り組みに力を入れるよ

うになったのでしょうか？

山本：弊社が成長し続けるには、常にオン

リーワンの独自性が必要」という意識が社内に浸透しているからだと思います。その成果

を最大限に活用するには知的財産が重要な

意味があります。

梅村：特に力を入れているのは、知的財産管

理技能検定(知財検定)2級取得の推奨と、

検定受験に向けた社内勉強会の実施です。こ

の取り組みは、技術者は開発を有利に行う

ツールとして知的財産権を使っていくべきだ

という考え方から提案させていただき、200

5年からスタートしました。

勉強会は2週間に1回のペースで行い、検

定まで1年かけて計20回実施します。勉強会

の参加者は30名ほどで、開発担当者が約半数

を占めますが、営業や総務からも参加して

くれています。技術者だけでなくみんなに

知的財産への意識を高めてもらいたいとい

う思いがあるので、全社に向けて参加者を

募っています。

勉強会は2週間に1回のペースで行い、検

定まで1年かけて計20回実施します。勉強会

の参加者は30名ほどで、開発担当者が約半数

を占めますが、営業や総務からも参加して

くれています。技術者だけでなくみんなに

知的財産への意識を高めてもらいたいとい

う思いがあるので、全社に向けて参加者を

募っています。



## 特許権は中小企業の武器 社員一人一人が力を発揮するために

日本で紡績業が成長し始めた明治27年頃、紡績機の重要な部品「トラベラー」の製造で初めて成功させた金井重要工業。“知的財産”への意識を社内に浸透させるため、10数年前からアイデアを凝らした取り組みを行って成果を上げている。開発グループのリーダーと知財担当者に、その取り組みについて語ってもらった。

— 知的財産への意識を社内に浸透させる取り組みを行っているそうですが、具体的にどんなことをされていますか？

梅村：特に力を入れているのは、知的財産管理技能検定(知財検定)2級取得の推奨と、検定受験に向けた社内勉強会の実施です。この取り組みは、技術者は開発を有利に行うツールとして知的財産権を使っていくべきだという考え方から提案させていただき、2005年からスタートしました。

勉強会は2週間に1回のペースで行い、検定まで1年かけて計20回実施します。勉強会の参加者は30名ほどで、開発担当者が約半数を占めますが、営業や総務からも参加してくれています。技術者だけでなくみんなに知的財産への意識を高めてもらいたいという思いがあるので、全社に向けて参加者を募っています。

勉強会は2週間に1回のペースで行い、検定まで1年かけて計20回実施します。勉強会の参加者は30名ほどで、開発担当者が約半数を占めますが、営業や総務からも参加してくれています。技術者だけでなくみんなに知的財産への意識を高めてもらいたいという思いがあるので、全社に向けて参加者を募っています。

山本：弊社が成長し続けるには、常にオンラインの独自性が必要”という意識が社内に浸透しているからだと思います。その成果を最大限に活用するには知的財産が重要な意味があります。

梅村：特に力を入れているのは、知的財産管理技能検定(知財検定)2級取得の推奨と、検定受験に向けた社内勉強会の実施です。この取り組みは、技術者は開発を有利に行うツールとして知的財産権を使していくべきだという考え方から提案させていただき、2005年からスタートしました。

勉強会は2週間に1回のペースで行い、検定まで1年かけて計20回実施します。勉強会の参加者は30名ほどで、開発担当者が約半数を占めますが、営業や総務からも参加してくれています。技術者だけでなくみんなに知的財産への意識を高めてもらいたいとい

う思いがあるので、全社に向けて参加者を募っています。

山本：弊社が成長し続けるには、常にオンラインの独自性が必要”という意識が社内に浸透しているからだと思います。その成果を最大限に活用するには知的財産が重要な意味があります。

梅村：特に力を入れているのは、知的財産管理技能検定(知財検定)2級取得の推奨と、検定受験に向けた社内勉強会の実施です。この取り組みは、技術者は開発を有利に行うツールとして知的財産権を使していくべきだという考え方から提案させていただき、2005年からスタートしました。

勉強会は2週間に1回のペースで行い、検定まで1年かけて計20回実施します。勉強会の参加者は30名ほどで、開発担当者が約半数を占めますが、営業や総務からも参加してくれています。技術者だけでなくみんなに知的財産への意識を高めてもらいたいとい

## Company Profile 金井重要工業株式会社

代表取締社長／金井 宏彰  
本社所在地／大阪府大阪市北区堂島1-2-9  
事業内容／織機器製造・販売、不織布製造・販売  
その他事業／不動産の賃貸  
電話／06-6346-1471(代)



また、知財検定を取得した私の部下が「こんな危ない特許権を見つけました!」と指摘してくれるようになったのは意識の高まりの表れであり、成果の一端だと思います。

— 知財検定の社内勉強会を実施する目的は主体性ある人材の育成